

令和6年度 京都府立大学地域貢献型特別研究（府大 ACTR）成果概要報告書

分類 番号	10	取組 名称	京都在来ブドウ品種‘聚楽’の復活栽培に向けた課題解決 と京果樹ブランドの新展開
研究代表者所属・職名：生命環境科学研究科・教授 氏名： 板井章浩			
研究担当者： 京都府立大学（板井章浩、森本拓也） 外部分担者・京都府農林水産技術センター農林センター丹後農業研究所（山口俊春主任 研究員）、京都府立桂高校（宮脇潤）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府農林水産技術センター・農林センター・丹後農業研究所 京都府立桂高校			
【研究活動の要約】			
高台寺近くの民家の庭先で100年生に近いブドウ樹が発見され、このブドウは、京都において安土桃山時代から栽培の記録があり、昭和になって絶滅した‘聚楽’ブドウまたはその子孫である可能性がある。聚楽を栽培したところ、非常に花振り（生理落果）が多く見られ、着果の安定が課題となっていた。また生食用としては、種無し果実生産も重要な課題である。今年度も主として、植物ホルモンのジベレリン処理等を行い、聚楽の種無し果実生産に取り組んだ。また、聚楽を用いた新品種開発を目的として、‘シャインマスカット’ X ‘聚楽’ 等の交配を行った。			
【研究活動の成果】			
<ul style="list-style-type: none"> ・自然受粉においてはこれまで同様、非常に花振るい（果粒の落果）が多くなったが、植物ホルモン処理について、6処理区設け、濃度や時期、処理回数を検討した結果、花振るいも抑え、単為結果させることが可能な処理条件を見いだした。今後さらに濃度等をより検討する必要がある。 ・‘聚楽’を用いた新品種開発に取り組み、‘シャインマスカット’ X ‘聚楽’、‘マスカットベリーA’ X ‘聚楽’の組み合わせで後代種子を多数得た。 ・桂高校の学生の協力により、培養の条件検討を行い、多数の無菌苗を得ることが出来、そのうち2個体はシュート伸長もみられた。 ・聚楽の別系統（五条坂系統）の可能性のあるブドウ樹の苗木30株を育成し、一部初成りし、果実形質を調査し、紫色、糖度が高い果実形質を示した。 			
【研究成果の還元】			
1. R7.3.28 京都府立大学生命環境学部附属農場 市民約20名 「精華キャンパス ACTR 成果発表会」			
【お問い合わせ先】			
生命環境科学研究科 資源植物学研究室 教授・板井章浩 Tel: 0774-93-3253 E-mail: itai@kpu.ac.jp			

参考(イメージ図、活動写真等)

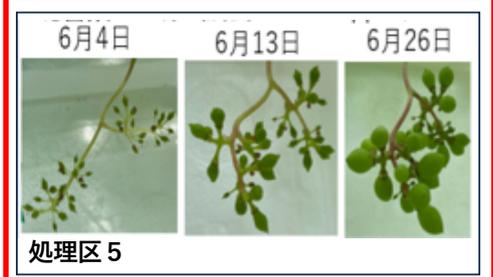
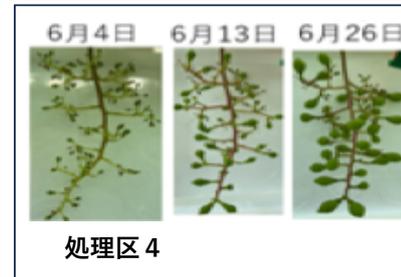
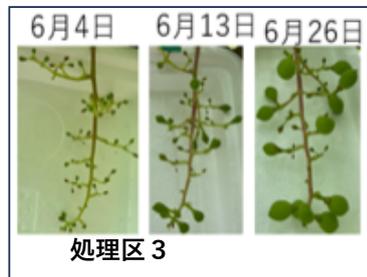


五条坂系統の初成りの様子



聚楽培養苗の様子(桂高校樹木班)

各処理区果粒発達の様子



濃度、処理時期等処理区によって着粒率や果粒肥大が大きく異なった

